

公益財団法人 金沢市スポーツ事業団主催

第一回 かなざわスポーツ川柳コンテスト 入賞作品

8月から9月にかけて募集しました「スポーツ川柳」の入賞者が決定しましたので発表します。

たくさんのご応募、ありがとうございました。

■募集期間 平成29年8月1日から9月20日まで

■応募者数 280人（全国35都道府県から応募がありました）

■応募総数 770句

■選評 石川県川柳協会 事務局長 城山悠歩先生



地球ごと抑え一本金メダル

（千葉県 大海の真珠様 男性 40歳）

【選評】

抑え込みに入る。相手も逃れようと必死だ。金と銀では大違い。

3、2、1、0。決まった！相手選手を床下地球ともども抑え込んだからこそその一本勝ちであり、金メダルである。

「地球ごと抑え」が実に上手い。





万歩計ノルマで我が家通り過ぎ

(大阪府 井内和子様 女性 66歳)

【選評】

五千歩とか一万歩とか人によってノルマは違うだろうが、健康のために歩いてい
る人は多い。ノルマを優先すれば自宅前も通過するしかない。そのまま通り過ぎ、
ノルマを達成して戻る。巧まぬ真実にクスリ。



スポーツの汗はわたしの化粧水

(群馬県 板垣 宏様 男性 60歳)

【選評】

乾燥してカサカサの肌をみずみずしく潤いのある肌に変えたい。どの化粧水がい
いか、友達に聞いたりアンケートを見たり。意外なことに、スポーツの汗が自分
に最適だった！

第三の道の発見をスツキリと表現。





スポーツを広め地球は健康美

(大阪府 小松真人様 男性 35歳)

【選評】

政治も経済もぎくしゃくし、何かといがみ合う地球。地球市民は死語になったのか。病んだ地球の復活の鍵はスポーツ。スポーツを広めれば、地球は健康体に戻り、美しくなる。個人体験を地球に類推する妙。



減塩の妻の愛から増えた縁

(滋賀県 PON5様 男性 42歳)

【選評】

生活習慣病に減塩は欠かせない。減塩食を工夫する妻の愛情によって、自分は健康体を保ち、生き生きとスポーツや趣味を楽しんでいる。仲間も増え日々好日の好循環！減塩と増縁の対比・連関が上手い。



創る汗選手もサポもかがやいて

(長野県 原風景様 男性 70歳)

【選評】

スポーツ川柳は先ず個人としての運動選手を、次に支える仲間や家族、サポーターを詠む。だが、この句は一方だけを取り上げるのではなく、全員で取り組む汗に創造と輝きを見ている。かが(加賀)も詠みこむ。





全員のスポーツシューズがある我が家

(栃木県 寒梅様 男性 82歳)

【選評】

同じスポーツか、違うスポーツかはさておき、シューズでスポーツ一家を表現している。喜びも悲しみも分かち合える一家だ。



フェアプレー種目になれば金メダル

(東京都 ハルル様 女性 64歳)

【選評】

逆に言えば、自分の励むスポーツでは金・銀・銅の賞は取れないのだ。でも、フェアプレーなら一番の自信！



無理しないように走れと無理を言う

(神奈川県 井上靖様 男性 59歳)

【選評】

走る自分と見守る周囲（コーチや家族など）とのズレを上手く表現している。上を目指せば無理な走りにもなる！



佳作

子が巣立ち代わってテニスかすがいに

(兵庫県 中村 豊様 男性 62歳)

【選評】

「子がかすがい」とか。だが、子が巣立った後は？人生はうまくできていて、共通の趣味のテニスがかすがいになる。

佳作

ここはどこスポーツジムも高齢化

(石川県 谷保俊夫様 男性 69歳)

【選評】

スポーツジムを高齢者施設と勘違いすることもある昨今。だが、それだけ元気なお年寄りが多いということ。

